

F/3

BANGKOK洪水報告

国際連合アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP)
天然資源部水資源課 経済担当官 大町 利勝

BANKOK洪水報告

日本の新聞にも一部報道されたようにBANGKOKは今（昭和58年11月10日）水の中にあります。8月末からの連続的降雨により市内各所で排水不良のため内水氾濫が発生しておりましたが、降雨も収まり、晴天の多くなった現在はチャオプラヤ河上流域からの洪水の流達により、市内の低地では依然として浸水が続いています。現地の日本人学校もこのため休校し再開の目途は立っておりません。

筆者はE S C A Pのおいて地域内の洪水対策を扱う者として、10月6日、市内でも最も深刻な被害を受けているといわれるソイ・プラカノン一帯をバスおよび小舟で視察し、多くの興味深い写真を撮ったので、ここにその一部を紹介する。BANGKOKにおける現状を紹介することが他山の石として国内での一層の治水対策の促進に役立てば幸いである。

BANGKOK POST FRIDAY OCTOBER 21, 1983

Bangkok ...

the world's latest floating city



風景Ⅰ——街路

プラカノン道路はほぼ全線水没し、クローン（タイ語で運河）と化してしまった。皮肉なことにもととの運河を横断するための橋梁の部分が高くなっており、舟で一気に目的地にという訳にもいかない。

交通信号も今は不用となったニューペプリとプラカノンの交差点。バス、トラック、手漕ぎボート、手押しボート（写真中央）、モーターボートが行きかっている。



10バーツ（約100円）で乗った手押しボートから撮った街路風景。



BANGKOK名物の水上マーケットも道路に進出。市内で水上マーケットを見ようと思うなら今がチャンス。当地の新聞によれば洪水も今や新しい観光資源とか。



商店の前の段に沿ってバス停へ急ぐ人々。各商店は例年の洪水から店を守るため床を高くし、前面に2〜3段の階段を設けている。



洪水の中も営業を続ける商店街。



『ボート売出し中』の看板を掲げてボート、水中ポンプ、ホース等を売出す商店。



どこもかしこも水浸しとなった今、空のプロパンガスのボンベの回収も容易。水に浮いたボンベを紐に括って運ぶ店員。



普通の鉄工所にもわか造船所の早
変り。店頭に舟を並べて売出し、
ブロック壁の内側では鉄製のボート
を製作中であった。



風景Ⅱ — — 交通

BANGKOKの洪水は例年のことであり、市民はそれなりに対策を講じて、各自の
財産は保護しているが、道路、街路の浸水だけはいかんともしがたく、洪水の直接被害に
くらべ市民生活への間接的被害ははかり知れない。

乗用車の通行は不可能。舟、トラ
ック、バスが行交う。中央上のボ
ートはエンジン付きであることに注
目。



横断歩道橋の下に設けられたバスの
発着用棧橋に群がる舟。 バスから
水の中を歩くか、10パーツ（約1
00円）払ってボートに乗るか。
背景の映画館はこの洪水にもかかわ
らず営業中。



仮設の棧橋に到着したバス。



バスの排気管も水の中。 仮設の棧
橋を出航するバス。
Bon voyage!



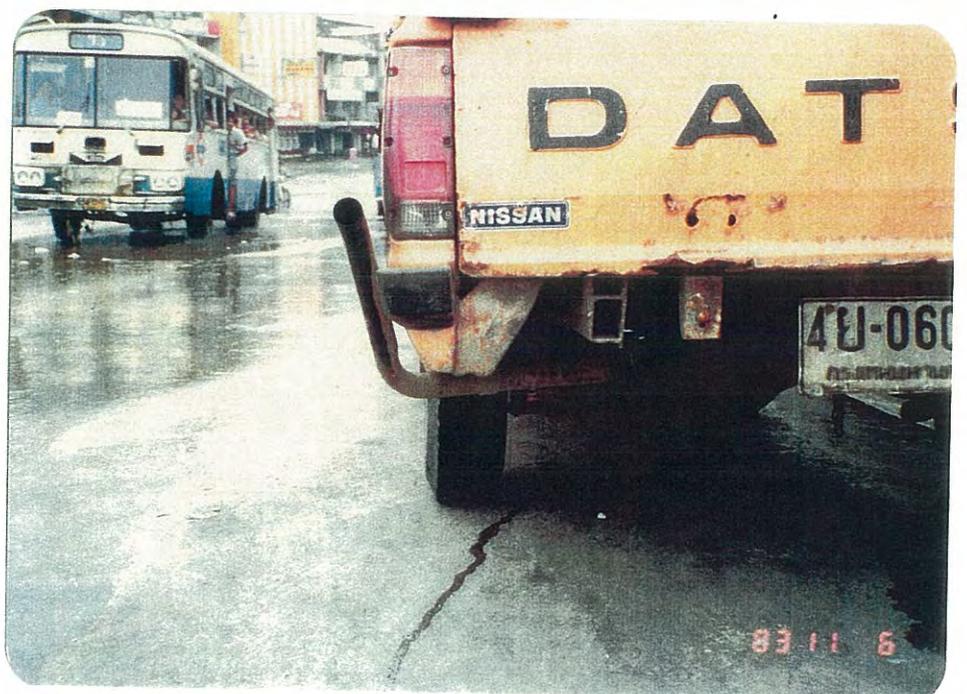
バス、トラックのけたてる波もバン
コクでは新種の公害。



軍用トラックも大活躍。 市民の貴
重な足となっている。



エンストはしばしばのこと。 水の
侵入を防ぐため高く天に向けた排気
管。



洪水には意外と強いオートバイ。
もともと、これから先どこまで行けるのか、ひとごとながら心配も。
道路のアナボコに気をつけて下さい。



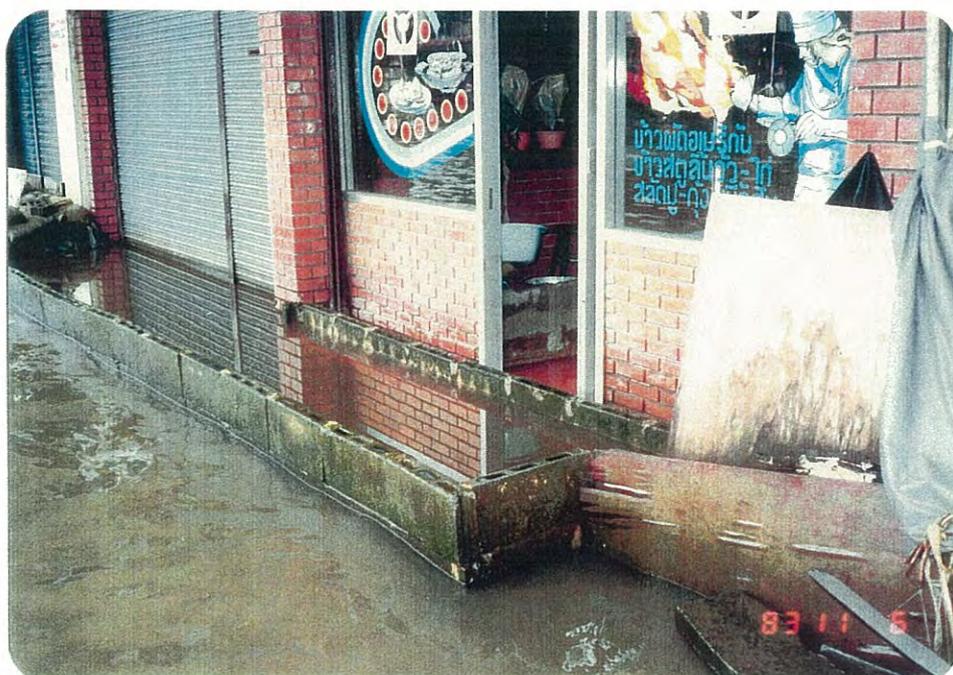
とうとう出ました水陸両用三輪自転車。
小型エンジンを後部荷台に載せたアイデアには感心するが、いっそのことスクリュウを付けたらどうですか。



風景Ⅲ—This is the Flood Proofing (ながびく洪水への自衛策)

BANGKOKでは例年、程度の差はあれ、ゲリラ的浸水に悩まされている。したがって住宅、アパートは地上げし、また街路沿いの商店はレンガ、コンクリート・ブロック、角落し等により自衛している。しかしながら、今回の洪水は例年を上回る、40年来の洪水であり、それぞれにコンクリート・ブロックの積み増し、土のうを積み上げる等して対策している。

商店前面に構築されたブロック壁。歩道に突き出た第一線堤、出入口に沿った第二線堤、さらに出入口の内側にもブロック壁が見え三重に防御されている。



前面に並べたドラムカンで波を消し、さらに内側はブロック、板柵、土の等で囲っている。消波工の無い写真中央の電気器具店は波で侵入する水をポンプで排出しているのが見える。



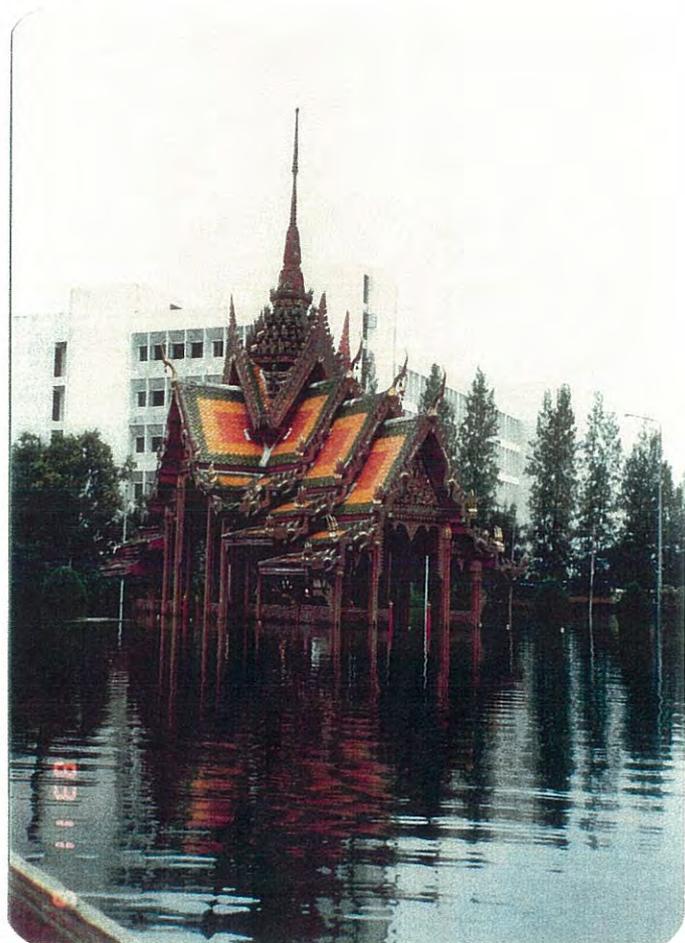
従来からのブロック壁の上に板柵で
嵩上げし、土のうで補強している。
出入りの便のために内側に段を設け
、床面と水面との差は1 m以上。



風景Ⅳ——ラムカムヘン大学休講

ラムカムヘン大学はバンコクでも洪水の激しい所に立地している。大学構内は完全に水没し、当然休講中であるが再開のみとうしはたっていない。水がひいても構内の整備に相当の日数と費用が必要であろう。微高地に建っている校舎に一部を除き、ほとんどの校舎は教室内まで浸水し、校舎の管理はボートで行われている。実験施設等を収容していると思われる棟については出入口に土のうを積み、水中ポンプで排水している。筆者は一説には1時間250バーツ（約2500円）といわれる構内見物用モーターボートを60バーツ（約600円）に値切り大学内部を撮影した。

大学正門入口の庭にあるパビリオンも台座の部分は水没し水上宮殿となっていた。



構内微高地に建つ校舎のまわりに避難した自動車の群れ。建物内部に机、椅子を積み上げたのが見える。



ほぼ完全に水没した車の屋根に群がる犬。のんびりした風景である。

